

# 令和元年度 第4回 地方独立行政法人長崎市立病院機構 理事会

## 【議事録】

1 日 時 令和元年7月31日（水） 13時から14時30分

2 場 所 長崎みなとメディカルセンター 醫聖ホール

3 出席者 10名

○理事会組織構成役員出席者数 8名

兼松理事長、杉町副理事長、松本副理事長、草野理事、高橋理事、勝野理事、森崎理事、パークガフニ理事

○監事 2名

白石監事、川崎監事

○欠席 1名

千葉理事

4 プレゼンテーション

マーメイド外来について ～事務部医事課～

本院で行っているマーメイド外来の概要、実績及び患者アンケートの結果等について事務部医事課長から説明があった。理事からは次のような意見があった。

- ・良い取り組みだが、経営的には採算が合っていない。今の10倍くらいは患者を増やして良い。
- ・保険診療以外のものについては単価を上げて良いのではないか。
- ・各科に看護師を配置しているのであれば、看護相談なども行った方が良いのではないか。

5 討議 1

第1 四半期の経営状況について

6月の経営実績及び今年度第1四半期の経営状況について事務局から説明がなされた。収支の状況や今後の経営改善策などについて説明があり、理事からは次のような意見があった。

- ・黒字を出した後に気が緩んでいるのではないか。患者を他院に取られている。各科ごとに患者を取り返すプランを立てなければならない。
- ・病院全体で目標数字を出すのではなく、各科ごとに明確に目標数字を出すべき。
- ・入院単価7万円、稼働率85%を維持していれば赤字にはならないはず。
- ・在院日数が短いのは大事だが、そうであれば満床にしなければならない。退院を決めるのはあくまでも主治医なので、院長から各科の医師に在院日数について直接指示を出すべき。
- ・ベッドの返上や人を減らすことも考えた方が良い。
- ・人件費を抑えるなど支出を縮めることはやめた方が良い。収入を上げるべき。
- ・病床を減らすしかないと思うが、そう簡単ではないだろう。救急搬送件数が減っているとのことであるが、それは急性期が減っているのか。その辺りの分析もした方が良い。
- ・経営が厳しい状況にあることを全職員が認識しているのか。過去の赤字は先行投資などが原因

であったため取り戻せたが、今回の状況はそうではない。目先のことももちろん大事だが、来年度以降のこともしっかり検討しなければならない。

- ・ベッドコントロール室はどう活動するのか。退院日はいつ誰が決めるのか。全て曖昧ではなく、回転率のコントロールや数値管理などを行い、予約入院や直入院の獲得も意識する必要がある。
- ・海外ではWEB予約が多い。インターネットを利用しての積極的な情報発信や多言語での発信もした方が良い。

## 6 報告 1

### 決算報告書の訂正について

令和元年度第3回理事会にて議案として上程し承認を得た、平成30年度財務諸表等の添付資料である決算報告書に記載された額に誤りがあったため、訂正した旨事務局から報告がなされた。

## 7 報告 2

### 歯科開設等に伴う第2期中期計画変更認可について

歯科開設等に伴い、第2期中期計画の変更認可申請を長崎市に行っていたが、認可された旨事務局から報告があった。また、8月5日に長崎大学にて長崎医療人育成事業に関する協定書の調印式が行われる旨報告がなされた。

## 8 報告 3

### 7月の地域貢献活動について

7月30日に本院にてピアノ・ソプラノコンサートを行い、入院患者等約30名程度の参加があった旨事務局から報告があった。

## 9 報告4

### 免震オイルダンパー不適合事案の経過について

本件について、8月下旬から随時取り換えを行っていくと関係業者から連絡があった旨事務局から説明があった。

## 10 その他

### 4階北病棟NICU内覧

希望者のみ新NICUの内覧を行った。